

J Aバンク山形県における地域密着型金融の取組状況（平成22年度）

J Aバンク山形県（山形県下J Aと農林中央金庫山形支店）では、農業と地域社会に貢献するため、平成22～24年度J Aバンク中期戦略に基づき地域密着型金融の推進に取り組んでおります。平成22年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

1 農山漁村等地域の活性化のための融資を始めとする支援 （J Aバンク山形県の農業メインバンク機能強化への取組み）

J Aバンク山形県は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

（1）農業融資商品の適切な提供・開発

J Aバンク山形県は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。平成23年3月末時点のJ Aバンク山形県の農業関係資金残高は、61,730百万円となっています。

（注1）農業関係の貸出金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。

（注2）J Aバンク山形県が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。受託貸付金残高には、J A転貸分を含みます。

【営農類型別農業資金残高】（単位：百万円）

営農類型	平成23年3月末現在
穀作	19,202
野菜・園芸	3,514
果樹・樹園農業	3,075
工芸作物	42
養豚・肉牛・酪農	6,326
養鶏・鶏卵	67
養蚕	3
その他農業	28,401
農業関連団体等	1,100
合計	61,730

（注）

1 「その他農業」には、複合経営で主たる業種が明確に位置づけられない者、農業サービス業、農業所得が従となる農業者等が含まれていません。

2 「農業関連団体等」には、J Aや全農（経済連）とその子会社等が含まれています。

【資金種類別農業資金残高】（単位：百万円）

種類	平成23年3月末現在
プロパー資金	45,203
農業制度資金	16,527
うち農業近代化資金	2,402
うちその他制度資金	14,125
合計	61,730

(注)

- 1 プロパー資金とは、JAバンク原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。
- 2 農業制度資金には、地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、地方公共団体等が利子補給等を行うことでJAバンクが低利で融資するもの、日本政策金融公庫等が融資するものがあり、ここではの転貸資金とを対象としています。
- 3 その他制度資金には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

【農業資金の受託貸付金残高】 (単位：百万円)

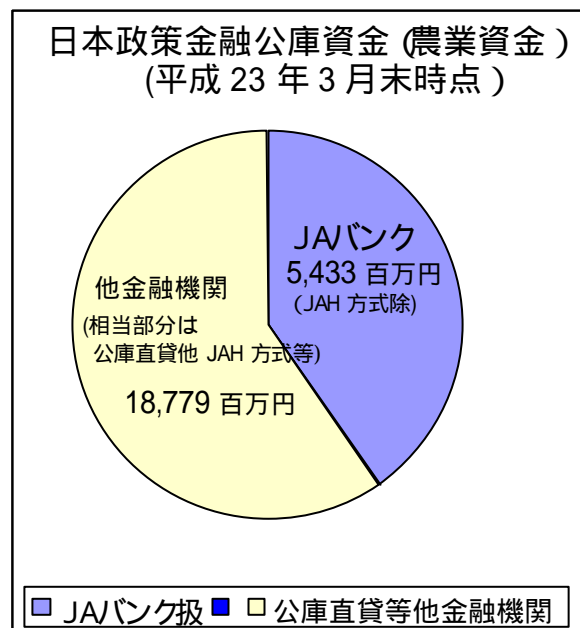
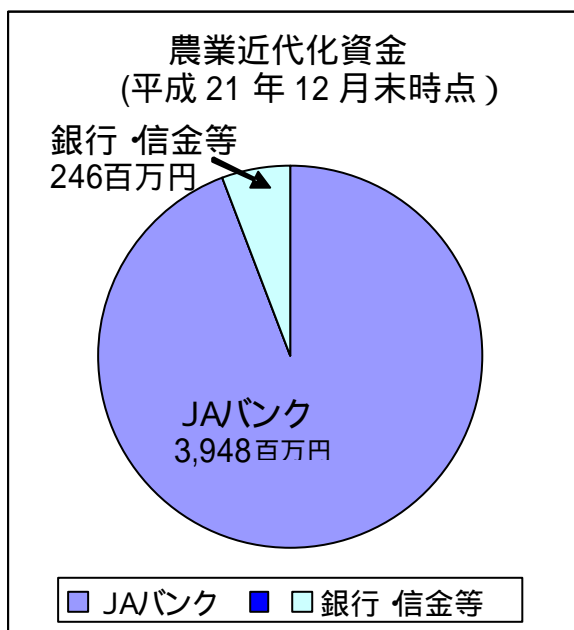
種 類	平成23年3月末現在
日本政策金融公庫資金	5,434
その他	0
合 計	5,434

(注)

JAバンクでは、主にはJAを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。

JAバンクは主要な農業関係の制度資金である、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いにおいてトップシェアとなっています。

【山形県の農業近代化資金および公庫受託貸付のシェア】



(2) 担い手のニーズに応えるための体制整備

JAバンク山形県では、地域の農業者との関係を強化・振興するための体制整備に取り組んでいます。

JAでは、本支店の農業融資担当者が、営農・経済担当者がお聞きした情報も含めて把握して、農業融資に関する訪問・資金提案活動を実施しています。また、県内17JAの本店には25人の「担い手金融リーダー」が設置され、支店の活動をサポートしています。

農林中金統合県支店では、JAのサポート指導機能、農業法人等への融資相談機能を担う「県域農業金融センター機能」を構築し、これらの機能の拡充、強化を実施しています。

(3) JA内事業間連携の強化

農業者の多様なニーズにJAをあげて応えていくため、営農・経済事業等との合同会議・研修会の開催や農業者への同行訪問等により、これまで以上に、JA内事業間連携を強化しています。

2 担い手の経営のライフサイクルに応じた支援

JAバンク山形県は、担い手をサポートするため、ライフサイクルに応じて、次の取組みを行っています。

(1) 新規就農者の支援

JAバンク山形県では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、就農支援資金を取り扱っています。

【新規就農者をサポートする資金の取扱い実績】 (単位：件,百万円)

	平成22年度 実行件数	平成22年度 実行金額	平成23年3月 末残高
就農支援資金(転貸)	36	107	624

(2) 経営不振農家の経営改善支援

JAバンク山形県では、負債整理資金の対応にあたり、特別融資制度推進会議を通じて関係機関と協議するなど、農業者の経営再建に向けて取組んでいます。

【平成22年度の農業者の経営改善支援等の取組み実績】 (単位：先)

	期初経営改善支援取組先 A	Aのうち			事業計画策定率 = a / A	ランクアップ率 = b / A	
		期中に再生計画を策定した先数 a	期末に債務者区分がランクアップした先数 b	期末に債務者区分が変化しなかった先数 c			
正常先	152	2		0	1.3%		
要注意先	うち 其他要注意先	330	3	27	295	0.9%	8.2%
	うち 要管理先	96	5	16	69	5.2%	16.7%
破綻懸念先	498	21	51	438	4.2%	10.2%	
実質破綻先	275	15	25	246	5.5%	9.1%	
破綻先	29	0	8	21	0.0%	27.6%	
小計 (~ の計)	1,228	44	127	1,069	3.6%	10.3%	
合計	1,380	46	127	1,069	3.3%	9.2%	

(3) JAバンク山形県セミナー等の開催

JAバンク山形県では、農林中央金庫山形支店の融資先のお取引先様や系統団体を招いた講演会と情報交換会を開催し、異業種間の情報交流を促進しています。

講演会名	参加対象者	参加団体数	主催者	内容
農業法人経営者セミナー (22年12月1日)	農業法人 県市町村職員 農協職員等	37	農林中央金庫 山形支店	題目 ピンチの後にチャンスあり 題目 変貌する世界の農産物市場と我が国農政
農業法人経営者セミナー (23年3月9日)	農業法人 県市町村職員 農協職員等	49	農林中央金庫 山形支店	題目 松下幸之助のひとづくり 題目 農業法人の資本政策

3 経営の将来性を見極める融資手法を始め、担い手に適した資金供給手法の提供

JAバンク山形県では、担い手の経営実態やニーズに適した資金の提供に努めています。

(1) 負債整理資金による軽減支援

JAバンク山形県では、農業者の債務償還負担を軽減し、経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【平成22年度負債整理資金の貸出実績】

(単位：件、百万円)

資金名	実行件数	実行金額	平成23年 3月末残高
農業経営負担軽減支援資金	4	65	223
畜産特別資金	8	84	330
その他	50	402	4,240
合計	62	551	4,793

- ・農業経営負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、JAなどの融資機関において取り扱っています。
- ・畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換え資金であり、JAなどの融資機関において取り扱っています。

(2) 動産担保融資の活用

JAバンクでは、農畜産物や事業用車両、各種在庫など様々な動産を担保とした融資を行い、不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資等への取組みを行っております。

山形県における融資の実績は次表のとおりです。

【山形県における平成22年度活用実績】 (単位：件,百万円)

	平成22年度	
	件数	残高
畜産物	133	3,045
その他	0	0
合計	133	3,045

4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

JAバンク山形県では、地域社会へ貢献するため、次の取組みを行っています。

(1) 災害被災者への支援

JAバンク山形県では、自然災害による被害を受けた農業者を支援するため、災害対策窓口を設置したほか、災害対策資金の創設や個別融資先の経営状況に応じて償還条件の緩和等に対応しました。

(単位：件,百万円)

取組事例	JA名	取組内容	取扱件数	実行金額
米価下落緊急対策資金の対応	JAバンク山形県	山形県下JAでは、仮渡金下落対策として、山形県の緊急対策に呼応し、JAグループ・県の利子補給を受けた低利資金を創設しました。	284	340
高温障害対策緊急資金の対応	JAバンク山形県	山形県下JAでは、高温障害対策として、山形県の緊急対策に呼応し、JAグループ・県の利子補給を受けた低利資金を創設しました。	9	15
米価下落JA独自対策資金の対応	JAバンク山形県	山形県下JAでは、仮渡金下落対策として、JAグループの利子補給を受けたJA独自の低利資金に対応しました。	502	544
高温等の異常気象等の対策資金の対応	JAバンク山形県	山形県下JAでは、高温等の異常気象対策として、行政の助成措置を受けたJA独自の低利資金に対応しました。	232	230
合計			1,027	1,129

(2) JAバンク食農教育応援事業の展開

JAバンク山形県は、地域の小学生の農業に対する理解を促進するため、JAバンク食農教育応援事業を展開し、農業にかかる教材「農業とわたしたちの暮らし」の配布や農業体験学習の受入れ等に取り組んでいます。

教材「農業とわたしたちの暮らし」は、JAバンクを通じて、県下の各小学校314校へ、13,880セット配布され、学校の授業等において活用されています。

また、県下JAでは、下表のような食農教育などの実践活動に取り組んでいます。

【ＪＡバンク食農教育応援事業による活動内容】

ＪＡ名	活動内容
ＪＡ山形市	小学生を対象に、田植え・稲刈り・収穫祭等の農業体験学習を実施しました。
ＪＡ山形	小学生を対象に「わんぱくアグリスクール」を開催し、８回に渡って体験学習を実施しました。
ＪＡ天童市	地元食材を小学校に提供するとともに、生産者との交流による食育教育を実施しました。
ＪＡさがえ西村山	管内小学校５年生に「ごはんちゃん」、小中学校に「つるり里芋栽培セット」贈呈し、食育教育を実施しました。
ＪＡみちのく村山	小学生を対象に、農産物栽培体験と収穫物と地元食材を使っでの収穫を祝う会を実施しました。
ＪＡ東根市	小学生を対象に、農業体験スクールを開催し、収穫体験を実施しました。
ＪＡ真室川町	小学生・幼稚園児を対象に、米作り・野菜作り体験教室を開催しました。
ＪＡ山形おきたま	小学生を対象に、アグリスクールを開講し、７回に渡って体験学習を実施しました。
ＪＡ鶴岡市	小学生を対象に、農業体験による食農教育活動を実施しました。
ＪＡ庄内たがわ	管内小中学校に、学校給食米の提供、農業に関する「図画・作文コンクール」を実施いたしました。
ＪＡ庄内みどり	青年部が首都圏の小学校を訪問し、バケツ稲の栽培方法・稲作・庄内農業について出前授業を行いました。
ＪＡ酒田市袖浦	小学生を対象に水田教室を開講し、体験学習を実施しました。

以上